

関東学院大学で三島作品を考えよう! 未来を語ろう!



日本文化をヨコハマから世界へ 関東学院大学 学長 小山 厳也

関東学院大学は2023年に開設した横浜・関内キャンパスを新たな知の発信の拠点として、「ヨコハマから未来へ。」と題した連続シンポジウムを展開しています。今回は作家の三島由紀夫生誕100年を記念して、三島文学の代表作『金閣寺』のオペラを世界へ向けて発信する演出家の宮本亜門さん、知の巨人として活躍する作家で元外交官の佐藤優さんをゲストスピーカーにお呼びして、本学教授で文芸評論家の富岡幸一郎との豪華なトークイベントを企画しました。グローバル時代こそ、その国の文化の本質をいかに発信するかが問われます。日本語の芸術的境地とも言える三島文学を通して、多文化共生の地たるヨコハマから「日本」の新たな姿を語ります。ご来場を心よりお待ちしております。

シンポジウム参加者



総合司会

半田あい



演出家 宮本亜門

2004年、東洋人初の演出家として、オンブロードウェイにて『太平洋序曲』を上演し、同作は「トニー賞4部門」にノミネート。ミュージカル、ストレートプレイ、オペラ、歌舞伎などジャンルを問わず幅広く作品を手掛ける。三島由紀夫作品としてはオペラとして『金閣寺』『午後の曳航』を上演。ストレートプレイでは『金閣寺』『ライ王のテラス』を上演し、来年1月には『サド侯爵夫人』を演出予定。



作家・元外交官 佐藤優

1985年外務省入省。2002年に背任と偽計業務妨害容疑で逮捕され、東京拘置所に512日間勾留される。2005年、自らの逮捕の経緯と裏側を綴った『国家の罠—外務省のラスプーチンと呼ばれて』を上梓し、「毎日出版文化賞特別賞」を受賞。以降、『自壊する帝国』で「新潮ドキュメント賞」と「大宅壮一ノンフィクション賞」を受賞するなど、広範な執筆活動を展開していく。2020年にはその功績が認められ、「菊池寛賞」を受賞。



文芸評論家 富岡幸一郎

1979年『意識の暗室 埴谷雄高と三島由紀夫』で、「第22回群像新人文賞評論部門」を21歳で受賞。以後、そのキャリアを生かし、文芸評論家として活躍。代表作に『内村鑑三』、『使途的 人間カール・バルト』、『入門三島由紀夫 文武両道の哲学』等があり、佐藤優氏との共著としては『〈危機〉の正体』『危機の日本史 近代日本150年を読み解く』の2冊がある。2024年には『ビジネスエリートのための教養としての文豪』を上梓。神奈川近代文学館理事も務める。



横浜市中区万代町1-1-1

会場への
アクセス JR・横浜市営地下鉄
関内駅 徒歩2分

JR京浜東北・根岸線「関内駅」 南口から徒歩2分

横浜市営地下鉄ブルーライン「関内駅」 1番出口から徒歩5分

みなとみらい線「日本大通り駅」 2番出口から徒歩8分

お申込みに関するお問合せ

関東学院大学社会連携センター

relation@kanto-gakuin.ac.jp

☎ 045-786-7744